

2023

7

# ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

橋本涼、大矢有朔

\*\*\*

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

\*\*\*

ナイル全国大会詠草集

\*\*\*

ブリューゲルの花束／二方久文

\*\*\*

5月号作品批評／宮本史一(心の花)

# NILE CAMPUS

289

伯梅閑話 — 富貴での親子会するとき —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

京都の寄席富貴での親子会するとき、出演者は席亭の家に泊まっていた。伯治も一緒に席亭の家に行った。そこに、新しい伯治を見に来たのが、嘶家の大看板だった七代目橘ノ円都（たちばなの えんと）と二代目旭堂南陵の二人。円都は三代目神田伯治と親しかったので、新しい四代目伯治はどんな人か見に来たのだった。旭堂南陵は、上方の講談師の大看板。六代目二龍齋貞山、大島伯鶴と同格だった。

そのあと、師匠や大看板の芸人と一緒では、気詰まりだろうというので、伯治は一人だけ、富貴での最初の十日間一緒に出ている漫才師の家に移った。漫才師は、富貴の近くに住んでいた。宿泊費は、富貴が出してくれた。特別待遇だった。

樂屋に遊びに来た花菱アチャコが伯治を聞いて、五代目神田伯龍に、「いいお弟子さんやな。楽しみだすな」と言ったのも富貴でのこと。

「生意気でしょうがない」

とひとこと師匠は言って機嫌が悪くなった。伯治は伯梅時代から名うての生意気だった。（ナイル2005年五月号）

芸人にとって弟子といえどライバルなのだろう。どの世界でもそうだったようで、同じジャンルの方が放送に出ると、同業の方から、「なんであいつを出すのだ」と抗議が入ることがままあったようだ。そのために放送されなくなったのが琵琶だと六代目伯龍は言っていたが、琵琶だけのことではなかっただろうと思う。最近はそういうことはなくなったように思う。さまざまジャンルが増えていき、同じ業界で足の引つ張り合いをしている場合ではなくなっているのだと思う。